

平成30年度事業評価書（平成29年度事業）

評価事項	評価項目	評 価	評 価 内 容
教養文化の向上	量的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた	
	質的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた	
	地域的な広がり、維持が適切に行われたか。	適切に行われた	
	ステップアップ促進が適切に行われたか	適切に行われた	
情報発信	量的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた	
	質的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた	
	情報発信の方法は、適切であったか。	適切に行われた	
地域支援	量的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた	
	質的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた	

地域支援	地域支援の方法は、適切であったか。	適切に行われた	
市民ニーズへの対応	市民ニーズの把握と満足度向上への取り組みは適切に行われたか。	適切に行われた	
事業計画とコンセプトとの整合性	策定された事業計画は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	適切	
	策定された事業計画の実施によって具体的な成果（アウトカム）が上がっているか。	上がっている	
	PFI 事業者の実施体制は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	適切	

### 事業についての講評

すべての評価項目について、高い水準で事業を実施しており、市民ニーズに応じた良質なサービスを提供できていると考えられる。ただ、10歳から20歳代の利用者と男性の利用者の来館者数がこれまでと同じように伸び悩んでいる現状は課題として継続的に認識しておく必要がある。

また、効率的な貸し室等の運用と利用者のニーズに対応するために、ダンス等で利用する鏡等の必要な物品の購入や保管場所について、検討するべきであると考える。

### PFI事業者への提言、提案など

引き続き、講座やプログラムの工夫によって来館者数を増やしていく創意工夫が求められるが、それに加えて、あすとホールを文化・情報等のネットワークの拠点としてとらえ、来館という方法でなくても、サービスにアクセスできる市民を増やしていくという新しい発想をもって事業展開していくことも検討してもらいたい。